

## エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査（遠音別岳）

|          |                                                                                              |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 資料名      | グリーンワーカー事業（知床半島におけるエゾシカの植生への影響調査事業）報告書                                                       |
| 調査主体     | 環境省                                                                                          |
| 評価項目     | 3．遺産登録時の生物多様性が維持されていること<br>6．エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと                     |
| 管理目標     | 遺産登録時（現状並み）時点の生態系の状態を維持                                                                      |
| モニタリング項目 | 特定重要地域を指標とした生態系の現状に関する総合的把握                                                                  |
| 評価指標     | 在来種の種数と種組成、採食圧への反応が早い植物群落（ササ群落 etc.）の属性（高さ・被度など）<br>外来種の分布及び個体数、登山道沿いの踏圧状況                   |
| 評価基準     | 在来種の種数と種組成：1980年代の状態へ近づくこと<br>ササ群落 etc.の属性：1980年代の状態へ近づくこと<br>外来種は根絶もしくは登録時より縮小、踏圧が拡大していないこと |

<平成20年度までの具体的調査手法>

表 遠音別岳におけるシカ採食圧に対するモニタリングサイトの概要

（平成18年度グリーンワーカー事業（知床半島におけるエゾシカの植生への影響調査事業）報告書より抜粋）

| 地点名 | 標高    | 面積      | 備考               |
|-----|-------|---------|------------------|
| ON1 | 320m  | 100m×4m | チャラッセナイ林道土場      |
| ON2 | 500m  | 100m×4m |                  |
| ON3 | 600m  | 100m×4m |                  |
| ON4 | 1050m | 20m×1m  | スミレ平             |
| ON5 | 915m  | 20m×1m  | 春刈古丹川上流（1mおきに調査） |
| ON6 | 490m  | 100m×4m | 春刈古丹川中流          |

ON1～3、ON6

混合ベルト調査を基本に、一部を変更して実施。長方形区（100m×4m）では、毎木調査を実施し、種別、生死、胸高周囲長、被食状況等を記録した。小方形区（1m×1m×6箇所）では2m未満の植物の種別、被度と高さを記録した。中方形区（2m×2m×6箇所）では2.5mまでに出現する木本葉の現存量を推定した。

ON4～5

1m×1mの小方形区を20箇所設定し、ON4では20方形区、ON5では10方形区について、生育する種ごとに被度を記録した。

<平成20年度までの具体的調査データ例>

ON1

トドマツ、ナナカマド、ハリギリ、ダケカンバ等から構成される針広混交林が観察された。20個体程度に樹皮剥ぎと角砥ぎが確認された。葉量の分布パターンにはエゾシカの採食の影響は認められなかった。林床では23種が確認され、チシマザサが優占していたが、シカが採食を忌避するエゾユズリハの被度が高かった。

ON2

トドマツとアカエゾマツが優占し、シカによる採食等は特に観察されなかった。広葉樹の葉はほとんど観察されず、稚幼樹も少ない。林床には24種が生育し、チシマザサ、オクヤマシダ、イワガラミ等が優占してい

た。シラネワラビとコヨウラクツツジには明らかな採食痕が認められた。

#### ON 3

アカエゾマツ、ナナカマド、トドマツ等の分布が確認された。広葉樹の葉量の分布パターンにおいて、エゾシカの影響を示す特徴は見られなかった。林床には 25 種の高等植物が生育しており、オオバスノキ、ゴゼンタチバナ、コヨウラクツツジ、ツルツゲ、マイヅルソウ等が観察され、軽度の採食痕が確認された。

#### ON 4

高等植物 22 種、苔類・地衣類 5 種が生育し、シレットコスミレやチシマツガザクラが優占する区間、ミヤマハンノキとハイマツの低木林、チングルマが優占する区間が観察された。シカによる目立った採食痕は観察されなかったが、近隣にはシカ道が分布していた。

#### ON 5

23 種の生育が確認され、チングルマ、シラネニンジン、タカネトウウチソウ、コガネギク等が優占していた。計 10 種にシカの採食痕が確認され、周囲においてはミヤマハンノキの採食が著しかった。

#### ON 6

トドマツ、イタヤカエデ、ミヤマハンノキ、ウコンウツギが多く確認され、シカによる樹皮の採食痕は確認されなかった。林床では 22 種が生育し、チシマザサ、シラネワラビ、エゾノヨツバムグラが優占していた。コガネギクにわずかにシカによる採食痕が認められた。

#### <コメント>

・遠音別地域における現状でのシカの採食圧は知床岬地区や幌別・岩尾別地区と比較して軽度なものと判断される。特に越冬に適さない標高 300m 以上の地点では影響は軽微である。

・今後、これらのサイトを定期的にモニタリングすることによって、シカの採食圧の拡大が生じた際に、採食される種の拡大、採食部位の増大、植被の減少と高さの低下、採食ラインの形成等の影響をいち早く検出することが期待される。

#### <評価>

2008 年度までの調査はモニタリングサイトの設置を行ったものであり、具体的な評価は困難。